

環境

人と地球の未来のために、
できることの全てを。

【環境方針】

1. 事業所で発生する環境負荷の削減
電気、ガソリン、LPガス等の消費抑制、
廃棄物の再資源化等
2. 環境負荷の小さい物流・サービスの提供
CO₂削減、資源循環による顧客への貢献
3. 環境意識と環境管理のレベル向上
グローバルな環境意識向上と関連法規、
会社規則の遵守
4. 自然との共生と環境コミュニケーション促進
生物多様性・生態系保全と顧客・地域との
環境協調



事業所で発生する環境負荷の削減

日立物流グループでは、低炭素な事業プロセスの実現をめざし、エコカーや省エネ機器の積極的な導入を通じて、事業所で発生する環境負荷の削減に取り組んでいます。

事業所での地球温暖化対策

● 建物での省エネ・温暖化対策

日立物流グループのエネルギー使用量の73.5%が電気、26.5%が燃料の使用であり、省エネ・温暖化対策として下記に取り組んでいます(右図参照)。

LED照明設備の導入

2018年度は、国内では柏プラットフォームセンター(千葉県)等の新設5拠点で同設備を導入したほか、蛍光灯等からの更新を18拠点実施し、合計2,730トンのCO₂を抑制しました。海外でもマレーシア・ニライチルドセンター(右写真)等の新設拠点において、導入しています。今後もLED照明設備を全面的に採用し、既存の蛍光灯・水銀灯を順次切り替えていきます。

● 車両の省エネ・温暖化対策

日立物流グループは最新型エコカーの導入、エコドライブの推進、モーダルシフト等の輸送改善により、車両燃料起源のCO₂抑制に取り組んでいます。

エコカーへの代替促進とエコドライブの推進

日立物流グループでは、低燃費・低公害な環境対応車(エコカー)への代替を進めており、一部の特殊用途車両を除き、2016年度末にてエコカー保有率100%を達成しました。

今後は、より環境性能に優れた最新型エコカーへの代替を進めるとともに、エコドライブ等の推進により、環境負荷低減に取り組んでいきます。



大型トラック

ダブル連結トラック導入による環境負荷低減

グループ会社の株式会社バンテックセントラルでは、環境省と国土交通省の連携事業である「物流分野におけるCO₂削減対策促進事業」として、全長21mのダブル連結トラック×2セットを2019年2月に導入し、2019年度より静岡県富士市～京都府南丹市間にて運行を開始する予定です。今後は実運用を通じて安全性・運行管理・生産性等の検証を行い、さらなる導入を進めていきます。



環境負荷の小さい物流サービスの提供

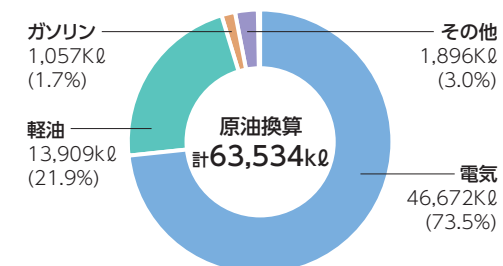
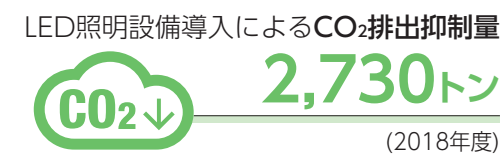
日立物流グループでは、物流サービスの中に省力化やモーダルシフトを取り入れ、お客様に最適なソリューションを提供するとともに、サプライチェーン全体の環境負荷低減を提案しています。

ロジスティクスとデリバリーが融合した施設共同利用による環境負荷低減

当社と佐川急便株式会社は、両社の顧客基盤を活用した営業連携を進めています。この取り組みは、当社の物流センター内に佐川急便のサテライト拠点を開設することで、集配トラック台数と走行距離の削減による環境負荷低減や、倉庫内作業の効率化による省力化をめざすものです。2018年度は、千葉県柏地区と京都府大山崎地区で実施し、CO₂削減量は年間78.4tとなっています。現在、両社は他エリアでも同様の取り組みを推進中です。



当社グループ 大山崎AE営業所(左上:佐川急便 営業所)

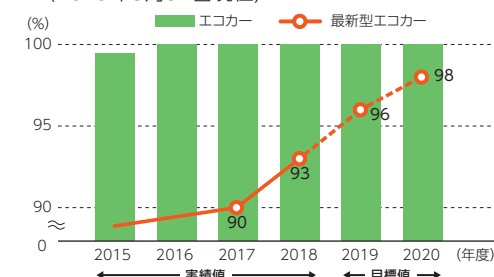


当社グループのエネルギー使用量(原油換算)内訳
(2018年度の建物と車両の合計)



マレーシア・ニライチルドセンター

● 日立物流グループのエコカー保有率(国内) (2019年3月31日現在)



注1) 対象車両は事業用と自家用の合計で、特殊用途車を除く。
注2) エコカーの種類は、ハイブリッド車、天然ガス車、電気自動車、国が認定している低燃費車(燃費基準達成車)・低排出ガス車。

